

2019 年度 スポーツ庁委託事業
「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」
報告書



Nippon Sport Science University
Center for Olympic and Paralympic Empowerment

令和 2 年 3 月 日本体育大学

本報告書は、スポーツ庁委託事業「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」として、日本体育大学が実施した 2019 年度の事業成果を取りまとめたものです。

したがって、本書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要となります。

はじめに

本事業も今年度で4年目を迎えました。本年度も、これまでと同様にスポーツ庁の目指す方針に沿って、次の2点を事業の趣旨として展開されました。①オリンピック・パラリンピックそのものについての学びを全国的に普及し、ムーブメントを醸成するための活動を行う。②オリンピック・パラリンピックを通じた学びを国民的レベルで深めるための支援活動を行う。今年度は昨年度までの北海道、栃木県、千葉県、千葉市、新潟市、石川県、大阪市、兵庫県、神戸市、高知県、大分県に、新潟県、山梨県、岡山県、岡山市が新たに地域拠点として加わり、日本体育大学と連携しながら事業を進めて参りました。本年度の事業にご協力賜りました地域拠点ならびに関係団体の皆様に、この場をお借りしましてお礼申し上げます。

今年度の本事業が終了した時点で、東京大会の開会が間近に迫っています。これまでの本事業の成果が、日本全国規模でのオリンピック・パラリンピックの価値への理解を促進し、国際理解、異文化理解、共生社会の実現に寄与できることを願っております。そのために、本年度も地域拠点への支援、全国コンソーシアムへの参加、ホームページでの情報発信に努めてまいりました。オリンピック・パラリンピックムーブメントが着実に浸透しているのではないかと感じております。

本報告書の取り組みが2020年東京大会に向けて、そして大会後のレガシーとしてオリンピズムとパラリンピックムーブメントのさらなる展開と教育的価値の実現に繋がることを願っております。

令和2年3月

スポーツ庁委託事業「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

日本体育大学事業統括 学長 具志堅幸司

目 次

✚ 本事業の概要

1. 趣旨1
2. 目的1
3. 推進体制2
4. 実施スケジュール2

✚ オリンピック・パラリンピック教育地域拠点への支援

1. 全国セミナー3
2. 地域セミナー5
3. 地域ワークショップ19
4. 全国ワークショップ34
5. 円滑なオリンピック・パラリンピック教育のための支援35

✚ N-COPE の取り組み

1. オリンピック・パラリンピック教育授業実施38
2. パラリンピック教育41
3. 国際相互理解教育43

本事業の概要

1. 趣旨

2020年東京大会の準備及び運営に関する施策の推進を図るための基本方針（平成27年11月27日閣議決定）において、政府は「大会開催を契機に、オリンピック・パラリンピック教育の推進によるスポーツの価値や効果の再認識を通じ、国際的な視野を持って世界の平和に向けて貢献できる人材を育成する」ことを決定している。このため、この方針の実現に向けて、全国各地においてオリンピック・パラリンピック教育を推進する。

2. 目的

本事業は、2020年オリンピック・パラリンピック競技大会の全国的な機運醸成をはかる目的で行われる。特にオリンピック・パラリンピック教育を通して、スポーツの価値への理解を深め、フェアプレイ意識の涵養、国際・異文化理解などの教育的価値の実現を目指して行われる。

具体的な内容は以下の3点である。

(1) オリンピック・パラリンピック教育地域拠点への支援

スポーツ庁が別途、道府県・政令指定都市に委託するオリンピック・パラリンピック教育地域拠点（以下、地域拠点とする）に対して、オリンピック・パラリンピック教育のノウハウ・教材を伝達・共有するほか、地域拠点からの質問等に対応し、必要に応じて地域拠点等での指導助言を行うなどの支援を実施する。事前研修会として、各地域拠点における事業開始に際してはコーディネーターを対象とした「全国セミナー」を開催する。また、地域拠点が開催する推進校の教員等を対象とした「地域セミナー」および「地域ワークショップ」に参画し、本事業の概要説明やオリンピック・パラリンピック教育に関する具体的な実践例・教材の伝達・共有を行う。年度末には、地域拠点のコーディネーターを対象とした「全国ワークショップ」を開催し、地域拠点での成果と課題を共有するとともに、次年度の効果的な事業運営に向けた情報交換を行う。

(2) オリンピック・パラリンピック教育全国コンソーシアムへの参加

全国中核拠点における事業実施状況の報告、地域拠点の実践に関する支援策の検討のために開催された全国中核拠点会議に出席する。関係団体を含めたコンソーシアムへの参画により、オリンピック・パラリンピック教育に関する情報の収集と共有を行い、各地域拠点への支援に役立てる。

(3) 全国への情報発信

昨年度に構築した本事業に関するホームページを充実させ、オリンピック・パラリンピック・ムーブメントの成果や情報を全国へ発信する。また、報告書を作成することにより事業を検証し、成果をまとめる。

3. 推進体制

本事業の推進は、日本体育大学を拠点に、筑波大学、早稲田大学、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、日本オリンピック委員会、日本パラリンピック委員会、日本財団パラリンピックサポートセンター、東京都教育庁等の関係団体および地域拠点と協力体制を構築し、本事業を展開した。

4. 実施スケジュール

時期	事業内容
4月	<ul style="list-style-type: none">・大学内における推進体制の整備・地域拠点へのオリンピック・パラリンピック教育支援および実践視察（～3月）・オリンピック・パラリンピック教育授業指導案作成（～3月）・ホームページにおける成果・情報の発信（～3月）・第1回全国中核拠点会議
5月	<ul style="list-style-type: none">・第1回オリンピック・パラリンピック教育アンケート調査（～10月）・全国セミナー・地域セミナー：千葉県
6月	<ul style="list-style-type: none">・地域セミナー：北海道、石川県、大阪市、大分県
7月	<ul style="list-style-type: none">・第2回全国中核拠点会議・地域セミナー：栃木県、新潟県、岡山県、高知県
8月	<ul style="list-style-type: none">・地域セミナー：千葉市、新潟市、山梨県、兵庫県
9月	<ul style="list-style-type: none">・地域セミナー：岡山市
10月	<ul style="list-style-type: none">・第3回全国中核拠点会議
11月	
12月	<ul style="list-style-type: none">・第2回オリンピック・パラリンピック教育アンケート調査（～1月）・オリンピック・パラリンピック教育アンケート調査結果返送（～3月）
1月	<ul style="list-style-type: none">・第4回全国中核拠点会議・地域ワークショップ：千葉県、千葉市
2月	<ul style="list-style-type: none">・地域ワークショップ：北海道、栃木県、新潟県（開催中止）、新潟市、山梨県、石川県、大阪市、兵庫県、神戸市、岡山県、岡山市、高知県、大分県
3月	<ul style="list-style-type: none">・全国ワークショップ（開催中止）・委託事業完了報告書の提出

🚩 オリンピック・パラリンピック教育地域拠点への支援

1. 全国セミナー

本事業開始にあたり、事業の概要説明や、オリンピック・パラリンピック教育に関する具体的な実践例・教材の共有、関係団体の事業内容紹介を通して、各地域における効果的な事業展開に向けた情報交換を目的として実施した。本セミナーは地域拠点のコーディネーターを対象に開催した。以下に、全国セミナーの概要について報告する。

○開催概要

日 時：令和元年 5 月 14 日（火） 14：00～17：00

会 場：筑波大学東京キャンパス文京校舎

参 加 者：80 名

プログラム：

14：00 開会挨拶

スポーツ庁 審議官 藤江陽子

14：05 本事業の概要説明

筑波大学 教授 真田久
スポーツ庁オリンピック・パラリンピック課 係長 軍司菜実子

14：25 関係団体事業および教材等について

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会アクション&レガシー担当課 課長 塩見絢子
東京都教育庁指導部指導企画課 指導主事 小宮山詠美
日本オリンピック委員会オリンピック・ムーブメント推進部オリンピックミュージアム準備室 主事 下湯直樹
日本財団パラリンピックサポートセンター推進戦略部 プロジェクトマネージャー マセソン美季
内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局 参事官 御手洗潤

15：20 休憩・移動

15：30 全国中核拠点（担当大学）と地域拠点との打ち合わせ

16：35 全体共有ならびに質疑応答

17：00 閉会

○内容

開会挨拶では、2020 年に向けての機運醸成と大会後のレガシーが遺せるような持続可能な取り組みを実施してほしいとの方向性が示された。

続く事業概要説明では、筑波大学の真田久氏より本事業の趣旨・目的、オリンピック・パラリンピック教育の意義や価値について、スポーツ庁の軍司氏より今年度の取り組み方針に関する説明があった。

さらに関係団体事業および教材等について、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会より東京 2020 教育プログラム「よい、ドン！」について、東京都教育庁より東京都におけるオリンピック・パラリンピック教育の関連事業について、日本オリンピック委員会より 2019 年に開館するオリンピックミュージアムについて、日本パラリンピックサポートセンターより「I'mPOSSIBLE」の活用方法について、内閣官房よりホストタウンの推進について説明があった。

その後、全国中核拠点の大学と地域拠点との打ち合わせを実施した。はじめに、本学より本事業の

方向性と進め方、大学の取り組み、学校の教育理念や教育課程を活用したオリンピック・パラリンピック教育の利用方法について説明した。続いて、各地域拠点より事業計画の共有を行い、3年目以降の地域拠点は「地域の特性を活かしたレガシー」、2年目の地域拠点は「昨年度の成果と課題を踏まえて」、1年目の地域拠点は「重点項目」という視点から説明していただいた。その後、オリンピック・パラリンピック教育を「深めていくためには」「地域全体に広めていくためには」「地域住民に広めていくためには」というテーマに分かれ、地域の現状や課題の抽出、今後の具体的な方策についてグループワークを行い、グループごとに話し合われた内容を共有した。最後に再び全体で集まり、各全国中核拠点との打ち合わせ内容を共有し、全国セミナーを終えた。

今年度の事業開始にあたり、多くの情報を共有し、全国中核拠点と地域拠点だけでなく、地域拠点間との協力体制が築かれ、オリンピック・パラリンピック教育の推進に向けた有意義なセミナーとなった。



会場の様子



全体概要説明：真田氏（左）、軍司氏（右）



日本体育大学と地域拠点との打ち合わせの様子



全国中核拠点と地域拠点との打ち合わせ内容の共有：宮崎氏（左）、乳井氏（中央）、岡田氏（右）

2. 地域セミナー

(1) 北海道地域セミナー

○開催概要

日 時：令和元年6月14日（金）13：30～16：30

会 場：北海道庁本庁5階会議室

参 加 者：34名

プログラム：

13：30 開会挨拶

北海道教育庁学校教育局健康・体育課 課長 山上和弘

13：35 オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業について

日本体育大学 特別研究員 乳井勇二

14：05 北海道の取り組み

北海道教育庁学校教育局健康・体育課 主査 内海久

14：35 事務連絡・質疑応答

14：55 昨年度推進校の実践発表

- ・網走市立東小学校
- ・北海道恵庭南高等学校

15：15 演習・協議

- ・年間行事予定からの洗い出し
- ・校種別グループ協議

16：30 閉会

○内容

はじめに、本学より、本事業の目的、オリンピック・パラリンピック教育、方向性と進め方、他地域の実践事例について説明を行った。特に方向性と進め方については、推進校と地域が連携しムーブメントの拡大を目指していただきたいことや、それぞれの学校における教育理念や目標、さらには教育課程にオリンピック・パラリンピック教育の要素を交えて進めることで負担を軽減できることを強調した。

続いて北海道より、協力校、教育局との連携を強めて、地域への発信を求め、2021年以降に継続できる方法を考案し、北海道独自のオリパラ教育を推進していけるよう取り組んでいただきたいとの説明がなされた。さらに推進校を中心に北海道内の全校でオリパラ教育が実践されることを目標として推進校の担当者へ協力を促し、セミナーを終えた。



会場の様子



協議の様子

(2) 栃木県地域セミナー

○開催概要

日 時：令和元年 7 月 11 日（木） 9：30～12：30

会 場：栃木県庁北別館 402 会議室

参 加 者：39 名

プログラム：

9：30 開会挨拶

栃木県教育委員会事務局義務教育課 主幹 大高栄男

9：35 オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業について

日本体育大学 特別研究員 秋和真澄

9：50 栃木県オリンピック・パラリンピック推進事業について

栃木県教育委員会事務局義務教育課 副主幹 吉川真弓

10：00 実践発表

・那須塩原市

那須塩原市教育委員会学校教育課 副主幹 大島礼子

・栃木市

栃木市教育委員会学校教育課 副主幹 手塚浩史

10：30 休憩

10：40 講話「パラリンピック教育を通じて伝えられること」

日本財団パラリンピックサポートセンター推進戦略部 後藤陸

11：40 協議

12：25 事務連絡

12：30 閉会

○内容

はじめに、本学より事業概要の説明を行い、新しい取り組みとして実践を行うよりも、既存の教育および取り組みを活用し、推進校担当者が負担を感じることなくオリンピック・パラリンピック教育を実践していただくよう伝えた。続いて、栃木県教育委員会事務局より栃木県の実施方針について説明があり、年間のスケジュール等を伝えた。実践発表では、昨年度再委託先である 2 市教育委員会より昨年度の実践を紹介した。

講話では、「I'mPOSSIBLE」を活用したパラリンピック教育およびパラリンピック教育がもたらす教育効果について説明があった。

協議では、①各校の事業計画の共有、②学校全体の取り組みとするために教科間の連携や学校行事との関係を踏まえた実践の考案、③取り組みを実施していく上での問題点等の共有および課題解決の方策、という 3 点をテーマに実施した。前半の説明や講話を参考に計画を立てる学校、同グループの他校の実践を参考に計画を立てる学校があり、有意義なセミナーとなった。



協議の様子

(3) 千葉県地域セミナー

○開催概要

- 日時・会場：①令和元年5月14日（火）15：00～16：30 南房総教育事務所
②令和元年5月16日（木）15：00～16：30 葛南教育事務所
③令和元年5月20日（月）15：00～16：30 印旛教育会館
④令和元年5月23日（木）15：00～16：30 東葛飾教育事務所
⑤令和元年5月24日（金）15：00～16：30 東上総教育事務所

参加者：①17名、②14名、③17名、④25名、⑤15名

プログラム：

15：00 開会

15：05 オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業とオリパラ教育について

日本体育大学 特別研究員 大河原裕迪

15：15 オリンピック・パラリンピックに係る県内の主な動きについて

千葉県教育庁企画管理部教育政策課 主査 進藤周介

15：20 千葉県オリンピック・パラリンピックを活用した教育の取り組み方針について

千葉県教育庁企画管理部教育政策課 主査 齋藤智史

15：30 諸連絡

千葉県教育庁企画管理部教育政策課 主査 齋藤智史

15：45 ワークショップ

16：30 閉会

○内容

本事業の概要説明後、県内で開催されるオリンピック・パラリンピック競技の日程や学校連携観戦チケット、ライブサイト、聖火リレーに関して説明があった。その後、千葉県における取り組み方針や昨年度の実践例、オリンピック・パラリンピック教育推進教材を紹介した。また、オリンピック・パラリンピック教育を効果的に進めるために、①めあてをしっかりと持つ、②地域の特色や学校の実情に合った実践、③「小さく」始めること、の3つを手立てとして挙げた。諸連絡では、「ようい、ドン！スクール」、事前事後アンケート、報告書様式、県教委のホームページから学校のホームページへのリンクについて説明があった。

ワークショップでは、3班程度に分かれ各推進校の事業計画書を基に情報共有する時間を設けた。「今年度の計画」「昨年度からの課題」「2020 オリパラ以降の取り組み及びレガシー」について話し合い、各学校が抱える課題について意見交換を行った。また、市町村教育委員会に対して、会計処理に関わる事務的な説明を同時進行で行った。



会場の様子



グループワーク

(4) 千葉市地域セミナー

○開催概要

日 時：令和元年 8 月 27 日（火） 9：00～16：30

会 場：千葉ポートアリーナメインアリーナ

参 加 者：210 名

プログラム：

9：00 第 1 部開会挨拶

千葉市教育委員会事務局教育総務部企画課 課長 山崎二郎

9：05 オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業について

日本体育大学 特別研究員 大河原裕迪

9：30 実技研修（シッティングバレーボール、ゴールボール）

学校体育研究部員

12：00 第 1 部閉会

13：20 第 2 部開会

13：30 実技研修（車いすバスケットボール、ボッチャ、車いすフェンシング、テコンドー）

千葉ホークス、ボッチャ協会、車いすフェンシング協会、テコンドー協会

16：30 第 2 部閉会

○内容

開会にあたり、パラリンピックも 1 年を切り競技開催会場として大会機運の醸成に向けた取り組みの協力を含めた挨拶があった。

続いて、本学より本事業の概要、オリンピック・パラリンピック教育、他地域の事例について説明を行った。事例紹介では、教科横断的な事例や地域の人材を活用した事例、校種間交流等の観点から紹介した。

第 1 部の実技研修では、これまで学校で実践をしてきた教員が講師となることで、学校で実践するにあたってのポイントや段階的な指導方法が伝えられた。第 2 部では、外部講師を招いて体験を実施し、パラスポーツと千葉市で行われる競技について理解を深めた。

パラスポーツの学習の定着を図るために教員自身がスポーツの魅力を実感できたセミナーとなった。



会場の様子



指導のポイント説明



ゴールボール体験

(5) 新潟県地域セミナー

○開催概要

日 時：令和元年7月1日（火）13：30～16：00

会 場：新潟県庁2階203会議室

参 加 者：17名

プログラム：

13：30 開会挨拶

新潟県教育庁保健体育課 課長 灰野正宏

13：35 オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業について

日本体育大学 特別研究員 秋和真澄

14：00 パラリンピック教育の実際について

新潟医療福祉大学 准教授 左近慎平

14：30 事業の進め方について、事業の具体化

新潟県教育庁保健体育課 副参事 前田友晴

15：00 意見交流

16：00 閉会

○内容

はじめに、本学より、事業概要、教材、アンケート調査について説明を行った。オリンピック・パラリンピック教育の実践について、新しい取り組みとして実践を行うよりも、既存の教育および取り組みを活用し、推進校担当者が負担を感じることなくオリンピック・パラリンピック教育を実践していただくよう伝えた。

続いて、新潟医療福祉大学の左近氏より、「身体障害者（下肢に障害がある人）は私たちのようにスポーツができるのか」をテーマとした小学校での事例を参考に、子どもたちの「気づき」を深める授業展開例を紹介した。

さらに、新潟県教育庁より、オリンピック・パラリンピック教育の具体例を多く提示するとともに、新たに作り出すのではなく、今あるものを活用し、他教科・他領域との連携をすることで学校全体での取り組みにしてほしいと伝えた。

意見交流では、各推進校の実施計画を共有し、現状の課題や不明点等に対して意見交換を実施した。推進校を管轄する各市教育委員会も交えて話し合いが行われたため、実践に向け、協力体制が整えられた。外部指導者に関する質問が多く挙がったが、オリンピックやパラリンピアンにこだわらず、地域の特徴・人材を活用した講師選定を促した。



意見交流の様子

(6) 新潟市地域セミナー

○開催概要

日 時：令和元年8月6日（火）14：00～16：10

会 場：新潟市役所白山浦庁舎5号棟3階教育会議室1

参 加 者：13名

プログラム：

14：00 開会挨拶

新潟市教育委員会学校支援課 課長補佐 山田哲哉

14：05 オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業について

日本体育大学 特別研究員 秋和真澄

14：50 休憩

15：00 新潟市事業説明

新潟市教育委員会学校支援課 副参事 門倉純一

15：10 グループワーク「持続可能なオリパラ教育について～各校の実施計画をもとにして～」

16：10 閉会

○内容

はじめに、本学より、事業概要、教材、実践事例、アンケート調査について説明を行った。新しい取り組みとして実践を行うよりも、既存の教育および取り組みを活用し、推進校担当者が負担を感じることなくオリンピック・パラリンピック教育を実践していただくよう伝えた。

続いて、新潟市教育委員会より、新潟市事業計画、推進校事業計画の作成、報告書の提出、講師派遣、支出経費取扱いについて説明があった。講師派遣は、地元のサッカーチームおよび車いすバスケットボールチームに協力いただけることが決定しているが、事前事後学習を含めた継続的な実践にしていただくよう伝えた。

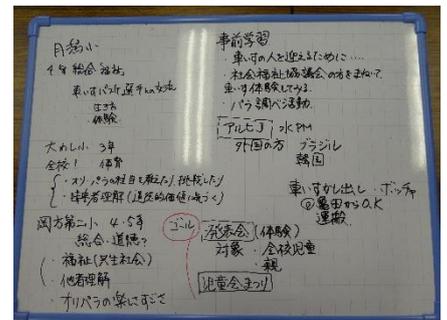
グループワークでは、①各校での実施予定、②実施可能な取り組み（オリパラに関して）、③どんな子どもに育ってほしいか、という3点について意見交換を実施し、最終的に各グループで話し合われたことを共有した。パラ用具の購入費、レンタル先などの意見がどのグループでも挙がっていたため、「I'mPOSSIBLE」の中に身近にあるもので用具を代替する方法が紹介されていることを伝えた。また、教育実践については、ねらいを明確にして実施すること、学習した内容は地域や家庭などに発信し、新潟市全体のムーブメントとなるよう伝えた。



事業説明：門倉氏



グループワークの様子



(7) 山梨県地域セミナー

○開催概要

日 時：令和元年 8 月 7 日（水） 14：00～16：30

会 場：山梨県庁防災新館 3 階教育委員会室

参 加 者：37 名

プログラム：

14：00 開会挨拶

山梨県教育庁スポーツ健康課 課長 丸山正雄

14：05 指定書交付

14：10 事業説明

①オリンピック・パラリンピック教育推進事業について

山梨県教育庁スポーツ健康課 指導主事 戸田徳和

②中核拠点より

日本体育大学 特別研究員 乳井勇二

③質疑応答

16：15 その他・事務連絡

16：30 閉会

○内容

はじめに、山梨県教育庁より、本事業の目的や日程、経費、各種提出書類等、具体的な内容について説明があった。続いて本学より、オリンピック・パラリンピック教育、方向性と進め方、他地域の実践事例について説明を行った。特に方向性と進め方については、推進校と地域が連携しムーブメントの拡大を目指していただきたいことや、それぞれの学校における教育理念や目標、さらには教育課程にオリンピック・パラリンピック教育の要素を交えて進めることで負担を軽減できることを強調した。その中で、初年度の取り組みとなることを踏まえ、推進校の先生方の不安をできる限り軽減できるよう、校種ごとに現時点で決まっているスケジュールや不明な点などを話し合い、全体で共有した。地域に関わらず多くの先生方で話し合いの場を持つことができ、有意義なセミナーとなった。



事業説明の様子



校種ごとの話し合いの様子

(8) 石川県地域セミナー

○開催概要

日 時：令和元年6月28日（金）15：00～16：30

会 場：石川県庁行政庁舎 1103 会議室

参 加 者：14名

プログラム：

15：00 開会挨拶

石川県教育委員会事務局保健体育課 課長 村戸徹

15：05 事業概要の説明

石川県教育委員会事務局保健体育課 指導主事 木村哲也

15：20 オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業について

日本体育大学 特別研究員 大河原裕迪

15：35 講演「オリンピック・パラリンピック教育について」

金沢星稜大学 教授 大森重宣

16：20 質疑

16：30 閉会挨拶

石川県教育委員会事務局保健体育課 課参事 居村吉記

○内容

事業概要説明では、石川県の取り組みについて、教育実践、オリンピック・パラリンピアンへの派遣、教育推進校実践事例発表会、報告書に関して説明があった。続いて本学より、本事業の概要説明、他地域の実践紹介、アンケートについて説明を行った。

講演では、オリンピック・パラリンピック教育を、健康のためだけではなく、スポーツを純粋に楽しみ感動を味わうこと、日本の身体文化や身体技法の再認識、そしてスポーツそのものの価値、教育としてのスポーツのありようを改めて考え直す機会として捉えてほしいと話された。

最後に、スポーツそのものの価値およびスポーツを通じた普段の学びの価値を高めるために、オリンピック・パラリンピック教育を上手く活用してほしいと挨拶があり、閉会した。



会場の様子

(9) 大阪市地域セミナー

○開催概要

日 時：令和元年6月11日（火）15：30～17：00

会 場：大阪市教育センター

参 加 者：22名

プログラム：

15：30 開会挨拶

大阪市教育委員会事務局指導部 主席指導主事 石井宏亨

15：35 オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業について

日本体育大学 特別研究員 乳井勇二

16：00 大阪市の取り組み

大阪市教育委員会事務局指導部 総括指導主事 栗山功

16：10 事務連絡・質疑応答

16：35 推進校と担当指導主事との打ち合わせ

17：00 閉会

○内容

はじめに、本学より、本事業の目的、オリンピック・パラリンピック教育、方向性と進め方、他地域の実践事例について説明を行った。特に方向性と進め方については、推進校と地域が連携しムーブメントの拡大を目指していただきたいことや、それぞれの学校における教育理念や目標、さらには教育課程にオリンピック・パラリンピック教育の要素を交えて進めることで負担を軽減できることを強調した。

続いて、大阪市教育委員会より、トップアスリートによる取り組み、多文化共生プログラム、ホストタウンの取り組みの3つの重点項目について説明があった。例年行われているオーストラリア車いすバスケットボールチームとの交流ではできるだけ多くの推進校の参加を望んでおり、協力を促していた。

セミナー後半では校種別に分かれて、教育委員会担当者との情報交換を行った。今年度の計画に加え、招聘するアスリートの選定など具体的な議論がなされ、有意義なセミナーとなった。



会場の様子



情報交換の様子

(10) 兵庫県地域セミナー

○開催概要

日 時：令和元年 8 月 27 日（火） 15：00～16：30

会 場：兵庫県民会館 901 会議室

参 加 者：37 名

プログラム：

15：00 開会挨拶

兵庫県教育委員会事務局体育保健課 課長 山根尚

15：05 事業概要説明

日本体育大学 特別研究員 秋和真澄

15：35 グループディスカッション

16：20 質疑

16：30 閉会

○内容

はじめに、本学より事業概要、教材、実践事例、アンケート調査について説明を行った。新しい取り組みとして実践を行うよりも、既存の教育および取り組みを活用し、推進校担当者が負担を感じることなくオリンピック・パラリンピック教育を実践していただくよう伝えた。

グループディスカッションでは、校種別に分かれ、①各推進校の現状報告・予定、②計画実践の際に参考になったこと・もの（他校の取り組みや教材など）、③事業実施、報告書作成までのプロセスでの課題や不明点（質問したいこと）、という 3 点について意見交換を実施し、最後に各グループで話し合われたことを共有した。課題として、校内周知が挙がり、事業の趣旨の理解と周知が困難なため、教職員への意識付けを行っていくことが必要だと話があった。また、推進校の募集が年度途中にあったため、前年度のうちに次年度の推進校募集があると計画が立てやすいとの要望もあった。

全体像やねらいが明確になって具体的なイメージが湧いたとの意見もあり、今年度の事業開始にあたり、多くの情報を共有し、オリンピック・パラリンピック教育の推進に向けた有意義なセミナーとなった。



事業説明の様子



グループディスカッションの様子

(11) 岡山県地域セミナー

○開催概要

日 時：令和元年 7 月 25 日（木） 14：00～16：30

会 場：岡山県生涯学習センター情報・創作棟 1 階視聴覚室、岡山県立鳥城高等学校体育館

参 加 者：27 名

プログラム：

14：00 開会挨拶

岡山県教育庁保健体育課 副課長 小林伸明

14：05 事業説明

・オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業について

日本体育大学 特別研究員 秋和真澄

・岡山県オリンピック・パラリンピック教育推進事業について

岡山県教育庁保健体育課 指導主事 佐野俊貴

15：00 パラスポーツ体験（ボッチャ、ゴールボール、シッティングバレーボール）

岡山県教育庁保健体育課 統括主幹 片岡敏行

岡山県教育庁保健体育課 指導主事 佐野俊貴

16：10 情報交換

16：25 質疑

16：30 閉会

○内容

はじめに、本学より、事業概要、実践事例・教材、アンケート調査について説明を行った。新しい取り組みとして実践を行うよりも、既存の教育および取り組みを活用し、推進校担当者が負担を感じることなくオリンピック・パラリンピック教育を実践していただくよう伝えた。

続いて、岡山県教育庁より岡山県の取り組みについて説明があった。教育実践について、各教科や特別活動、学校行事との関連を図りながら計画的に取り組むこと、オリンピック・パラリンピアン等講師招聘の際は単発的なイベントとならないよう事前・事後学習を行うことなど、2020 年以降も見据えた継続的な取り組みとなるよう伝えた。

パラスポーツ体験では、本学が保有しているボッチャやゴールボールなどのパラ用具を持参し、「I'mPOSSIBLE」を活用して 3 種目の体験を実施した。

情報交換では、グループごとに、各推進校での計画、本セミナーの事業説明やパラスポーツ体験を通して自校の計画に生かせること等を共有し、意見交換を行った。



事業説明の様子



パラスポーツ体験



情報交換の様子

(12) 岡山市地域セミナー

○開催概要

日 時：令和元年9月19日（木）14：30～16：30

会 場：岡山市役所本庁舎7階大会議室

参 加 者：12名

プログラム：

14：30 開会挨拶

岡山市スポーツ振興課スポーツ誘致推進室 室長 吉田武生

14：35 事業説明

日本体育大学 特別研究員 乳井勇二

15：45 情報交換

16：15 事務連絡

16：30 閉会

○内容

はじめに、本学より、本事業におけるオリンピック・パラリンピック教育についての方向性と進め方、目的や日程、経費、各種提出書類等についての説明、他地域の実践事例の紹介を行った。2次募集での参画となった岡山市では、特に教員への負担を軽減できるよう、それぞれの学校における教育理念や目標、さらには教育課程にオリンピック・パラリンピック教育の要素を交えて進めてほしいことを強調した。その中で、初年度の取り組みとなることを踏まえ、推進校の先生方の不安を取り除くことができるよう、校種ごとに現時点で決まっているスケジュールや不明点などを話し合い、全体で共有した。

情報交換では、岡山市スポーツ振興課より来年度5月に実施される聖火リレーについて、さらには岡山市がホストタウン登録をしているブルガリア選手との交流について、できる限り多くの児童・生徒が聖火リレーに関われるような内容を検討していきたいと説明があり、オリンピック・パラリンピック教育をさまざまな視点から進めていきたいという方針が出された。

年度途中となる2次募集での参画となり実施期間が限られているが、具体的な計画について話し合う時間を設けることで、有意義なセミナーとなった。



会場の様子



情報交換の様子

(13) 高知県地域セミナー

○開催概要

日 時：令和元年7月29日（月）13：00～16：45

会 場：春野総合運動公園体育館

参 加 者：26名

プログラム：

13：00 開会

13：05 事業説明

日本体育大学 特別研究員 大河原裕迪

13：20 高知県のオリンピック・パラリンピック教育について

高知県教育委員会事務局保健体育課 指導主事 山岡誠

13：25 パラスポーツ体験（シッティングバレーボール、ボッチャ、ゴールボール）

日本体育大学 特別研究員 大河原裕迪

15：40 グループ協議（学習計画の作成）

16：40 諸連絡

16：45 閉会

○内容

はじめに、本学より、本事業の概要、オリンピック・パラリンピック教育、教材について説明を行った。特に高知県では、「I'mPOSSIBLE」の活用を促進することを目的としているため、活用方法と効果について説明を行った。

「I'mPOSSIBLE」を活用したパラスポーツ体験では、始めからルールを固定するのではなく、児童・生徒の状況に合わせてルールもみんなで作りながら展開していくことを強調した。

グループ協議では、学校で「I'mPOSSIBLE」を活用したパラスポーツ体験の授業を行う際の学習計画について、ねらい、学習内容、計画、ルールや場の工夫、言葉かけの工夫、他教科との関連、事後の広がり観点から作成し、各グループによる学習計画の発表を行った。既存の授業と関わらせた取り組みや、保護者との交流行事に展開する計画の発表があった。



事業説明



シッティングバレーボール体験



グループ協議

(14) 大分県地域セミナー

○開催概要

- 日時・会場：①令和元年6月14日（金）14：00～15：30 豊後高田市立高田中学校
②令和元年6月19日（水）13：30～15：00 大分県立南石垣支援学校
③令和元年6月24日（月）14：00～15：30 玖珠町立くす星翔中学校

参加者：①14名、②16名、③14名

プログラム：

1 開会挨拶

大分県教育庁教育改革・企画課 課長 中村崇志

2 オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業について

日本体育大学 特別研究員 乳井勇二

3 今後についての打ち合わせ

大分県教育庁教育改革・企画課 課長 中村崇志

4 事務連絡

5 閉会

○内容

はじめに、本学より、本事業の目的、オリンピック・パラリンピック教育、方向性と進め方、他地域の実践事例について説明を行った。特に方向性と進め方については、推進校と地域が連携しムーブメントの拡大を目指していただきたいことや、それぞれの学校における教育理念や目標、さらには教育課程にオリンピック・パラリンピック教育の要素を交えて進めることで負担を軽減できることを強調した。

大分県教育庁からは、例年行われている大分国際車いすマラソン大会への応援に対して、本事業から予算を提示しているのでは是非多くの応援で大会を盛り上げて、東京パラリンピックへの機運醸成に繋げてほしいとの説明があった。

セミナー後半では校種別に分かれて、教育庁担当者との情報交換を行った。今年度の計画に加え、招聘するアスリートの選定など具体的な議論がなされ、有意義なセミナーとなった。



会場の様子



事業説明：乳井氏



打ち合せの様子

3. 地域ワークショップ

(1) 北海道地域ワークショップ

○開催概要

日 時：令和2年2月10日（月）10：00～16：00

会 場：北海道総合体育センターメインアリーナ他

参 加 者：121名

プログラム：

10：00 開会挨拶

北海道教育庁学校教育局健康・体育課 主幹 山城宏一

10：20 パラリンピックスポーツ体験（ボッチャ、ブラインドサッカー）

北海道ボッチャ協会 理事長 樋口幸治
一般社団法人A-bank北海道 芳賀博信

12：00 休憩

13：00 オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業について

日本体育大学 特別研究員 乳井勇二

北海道の取り組みについて

北海道教育庁学校教育局健康・体育課 主査 内海久

13：50 実践発表

全体発表：八雲町立落部小学校、北海道奥尻高等学校、北海道岩見沢高等養護学校

グループ別発表：上記を除く推進校

16：00 閉会

○内容

開会にあたり、東京オリンピックにおけるマラソンおよび競歩の実施が急遽決定し、是非北海道全体で大会を盛り上げ、多く子どもたちにオリンピックの素晴らしさを知る機会を作っていただきたいと挨拶があった。

前半のパラリンピックスポーツ体験では、徐々に広まりつつあるパラスポーツをさらに広げていくためには学校現場での実施が必要であり、今回体験したことを学校に戻ってからも是非行ってほしいと説明がなされた。午後は、本学より、事業概要説明および他地域での実践事例、北海道教育庁より、北海道の特色を活かした取り組み方法について説明を行った。

閉会にあたり、北海道教育庁内海主査から東京大会本番を目の前にしてオリンピック・パラリンピック教育の広がりを望んでいるが、北海道では2030年の冬季五輪の立候補を表明しており、先生方の協力でも10年後にもオリンピック・パラリンピック教育が継続されていることを望んでいると挨拶があった。



パラスポーツ体験



事業説明会場



実践発表の様子

(2) 栃木県地域ワークショップ

○開催概要

日 時：令和2年2月17日（月）13：30～16：30

会 場：栃木県総合教育センター学習室 AB

参 加 者：42名

プログラム：

13：30 開会挨拶

栃木県教育委員会事務局義務教育課 課長補佐 安藤育夫

13：35 推進地区および推進校による実践発表

・益子町

益子町教育委員会事務局学校教育課 学校教育係長 田崎香苗

・佐野市

佐野市教育委員会事務局学校教育課 指導主事 土田邦博

・県立高根沢高等学校

県立高根沢高等学校 教諭 伊東将大

14：05 中核拠点におけるオリンピック・パラリンピック教育について

日本体育大学 特別研究員 秋和真澄

14：20 休憩

14：30 報告会およびグループ協議

16：20 事務連絡

16：30 閉会

○内容

栃木県は市町に再委託しているため、小・中学校の実践は市町教育委員会より報告がなされた。益子町は町内の全小学校において、オリンピック・パラリンピックのシンボルマークの意匠や種目等を調べ、学習した事を生かして白無地うちわにオリジナルのデザインを描く取り組みを行った。事前学習の際のうちわの表面、事後学習後にうちわの裏面を描き、意識の変容を見られるようにした学校もあり、事前学習から事後学習後にかけてイラストや応援メッセージの内容が具体化したと報告があった。佐野市では、オリンピック・パラリンピックに係る研究授業として「I'mPOSSIBLE」を活用した校内研究および授業が全推進校で行われた。県立高根沢高等学校では、全学年各HRにて福祉・人権教育と関連させて授業を実施し、年度末には年間を通じた継続的な取り組みを地域に向けて発信した。

グループ協議では、今年度の取り組みについて成果と課題を中心に発表し、情報共有を図りながら今年度の取り組みを振り返った。また、成果と課題を踏まえ、来年度、学校全体としてオリンピック・パラリンピック教育を効果的に進めていくためにはどのようにしたらよいか協議した。



グループ協議発表の様子

(3) 千葉県地域ワークショップ

○開催概要

日 時：令和2年1月31日（金）13:15～16:20

会 場：千葉県文化会館

参加者：711名

プログラム：

13:15 開会行事

- ・千葉県教育委員会教育長挨拶

千葉県教育委員会 教育長 澤川和宏

- ・児童・生徒によるオリンピック・パラリンピック開催に向けたイラスト・キャッチフレーズ最優秀賞表彰式

13:50 推進校による実践報告

- ・館山市教育委員会・館山市立豊房小学校
- ・木更津市立清見台小学校
- ・県立東金特別支援学校

15:10 講演「オリンピック・パラリンピック開催年に子供とともに考えるべきこと」

日本財団パラリンピックサポートセンター推進戦略部 プロジェクトマネージャー マセソン美季

16:20 閉会

○内容

開会にあたり、スポーツには、スポーツを通じて人々の意識を変え世の中を変えていく価値があり、絶好の教育素材としてオリンピック・パラリンピックを活用していただきたいと挨拶があった。

続いて実践報告が行われ、外部講師やホストタウンの紹介を積極的に行った市教育委員会との連携について、パラリンピック教育を「知識教育ではなく、意識教育」と捉え、「I'mPOSSIBLE」のユニットの順番を目的に応じて工夫することでより有効に活用できることについて、生徒が主体となり地域でパラリンピックやパラスポーツについて指導・紹介を行った実践について報告された。

講演では、これまでの人生をなぞりながら障がいについての日本と世界の違い、共生社会に向けた心のバリアフリーに向けて「I'mPOSSIBLE」作成の想いと活用について話された。

県内の多くの教育関係者が参加し、次年度のオリンピック・パラリンピック教育の推進に向けた有意義な会となった。



会場の様子



実践報告の様子

(4) 千葉市地域ワークショップ

○開催概要

日 時：令和2年1月28日（火）15：00～16：30

会 場：千葉市教育会館大ホール

参 加 者：95名

プログラム：

15：00 開会

千葉市教育委員会事務局教育総務部企画課 課長 山崎二郎

15：10 実践報告

- ・ パラスポーツを探究課題に設定した総合的な学習の時間の実践

千葉市立幕張小学校 教諭 齋藤義則

- ・ オリンピック・パラリンピック大会を見据えた外国語活動の実践

千葉市立小中台小学校 教諭 大久保龍彦

- ・ パラスポーツを通してスポーツの多様な楽しみ方を学ぶ保健体育科（体育理論の実践）

千葉市立幕張西中学校 教諭 後藤洋平

- ・ パラスポーツ体験と関連づけた社会科・美術科でのオリパラ教育の実践

千葉市立花見川中学校 教諭 植木邦彦

- ・ パラスポーツを軸とした学校全体での教科横断的な学習の実践

千葉市立誉田小学校 教諭 前川良平

16：10 令和2年度以降の取り組みについて

千葉市教育委員会教育総務部企画課 指導主事 奈良容平

16：30 閉会

○内容

開会にあたり、千葉市の資源や取り組みを活用してオリンピック・パラリンピック教育の実践を広げてほしいと挨拶があった。

実践報告では、総合的な学習の時間や外国語、保健体育科、社会科・美術科、学校全体という観点から実践された取り組みが報告され、パラリンピック教育を実践する上で既存の取り組みと関連させて行うポイントが説明された。

最後に、令和2年度以降の取り組みについて、競技開催地域における大会に向けた応援作品やパラリンピック観戦、大会終了年度以降も競技用車いすの巡回貸出を継続すると説明があり、競技開催地域であることを活かして引き続きオリンピック・パラリンピック教育実践の協力を促した。



会場の様子



実践報告の様子

(5) 新潟市地域ワークショップ

○開催概要

日 時：令和2年2月25日（火）15:00～16:30

会 場：新潟市役所白山浦庁舎 3階教育会議室 1

参 加 者：35名

プログラム：

15:00 開会挨拶

新潟市教育委員会学校支援課 課長 齋藤純一

15:10 実践校による発表

・新潟市立笹口小学校

新潟市立笹口小学校 教諭 澤野太郎

・新潟市立鏡淵小学校

新潟市立鏡淵小学校 教諭 宮本裕介

15:40 オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業について

日本体育大学 特別研究員 秋和真澄

16:10 グループワーク：新潟市のオリンピック・パラリンピック教育の推進に必要なこと

16:30 閉会

○内容

実践校による発表では、1年間の継続的な取り組み内容および児童の変容とともに、成果と課題が共有された。笹口小学校では、講師招聘の事前授業として、スポーツ庁の指導参考資料および「I'mPOSSIBLE」を使用してオリンピックとパラリンピックに関する学習を実施したと報告があった。鏡淵小学校では、「I'mPOSSIBLE」を活用したクイズの掲示、校内のバリアフリーについて考える授業を実施しており、来年度以降は3年生の総合的な学習の時間「福祉教育」に位置付けて実施すると報告があった。

続いて、本学より、事業説明および実践事例紹介、東京2020大会に係る授業参考資料・聖火リレーに関して説明を行った。推進校以外の学校も参加していたため、既存の学校教育活動の中にオリンピックやパラリンピックなどの要素を取り入れることでオリンピック・パラリンピック教育になるということを強調して伝えた。

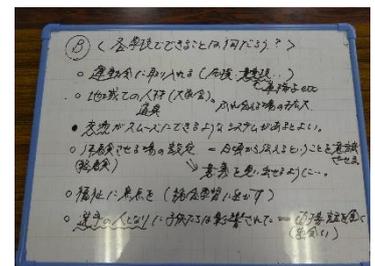
グループワークでは、各校で実施可能なオリンピック・パラリンピック教育について協議した。各学校でできることとして、運動会に競技や聖火リレーを取り入れる、福祉に焦点を当て総合学習に生かす、「I'mPOSSIBLE」などの教材の活用などが挙がり、来年度以降のオリンピック・パラリンピック教育の実践に向けて有意義な協議となった。



会場の様子



グループワークの様子



協議内容

(6) 山梨県地域ワークショップ

○開催概要

日 時：令和2年2月14日（金）14:35～14:55

会 場：山梨県総合教育センター

参 加 者：約300名

実践発表校：

- ・小学校：「オリンピック・パラリンピックを通じたスポーツに対する興味関心の向上」
南アルプス市立小笠原小学校 松田晃一
- ・中学校：「オリンピック・パラリンピックを身近に感じよう！」
北杜市立小淵沢中学校 新海和哉
- ・高等学校：「スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成」
県立中央高等学校 塩島朋子
- ・特別支援学校：「オリンピック、パラリンピックのスポーツ種目を体験しよう」
県立ろう学校 佐久間貴規

○内容

山梨県学校体育研究大会と兼ねて開催され、校種別の各分科会の中で推進校の実践発表がなされた。

小笠原小学校では、全学年が道徳で授業を実施したほか、運動会や校内読書週間などの学校行事と関連させた継続的な取り組みが報告された。小淵沢中学校では、全学年保健体育科「体づくり運動」の授業においてボッチャを実施し、特別支援学校との居住地交流や体育委員会でのオリンピック・パラリンピッククイズの掲示について報告があった。県立中央高等学校は定時制の学校であり、学園祭体育部門においてボッチャの要素を取り入れた種目を実施したほか、道徳「命の授業」での取り組みが報告された。県立ろう学校では、体育授業におけるオリンピック・パラリンピック学習およびビームライフル競技体験について報告があった。

実践発表後には教育庁より本事業の説明と次年度も継続して事業が行われることが案内され、推進校以外の各学校においてもオリンピック・パラリンピック教育を実施していただくよう伝達があった。



分科会（高校）会場の様子



実践発表の様子

(7) 石川県地域ワークショップ

○開催概要

日 時：令和2年2月12日（水）10：40～12：15

会 場：石川県地場産業振興センター本館大ホール

参 加 者：355名

プログラム：

10：40 開会

石川県教育委員会事務局保健体育課 課長 村戸徹

10：50 オリンピック・パラリンピック教育推進事業に関する報告

・小学校

志賀町立志賀小学校 教諭 島田智宏

・中学校

内灘町立内灘中学校 教諭 菅谷吉磨

・高等学校

県立鶴来高等学校 教諭 糺高晴

・特別支援学校

県立小松特別支援学校 教諭 田中日呂美

・石川県事業報告

石川県教育委員会事務局保健体育課 指導主事 木村哲也

12：00 質疑応答

12：15 閉会

○内容

開会にあたり、一層の子どもたちの体力増進と「する」「みる」「支える」様々なスポーツとの関わり方についてオリンピック・パラリンピックを活かして取り組んでいただきたいと挨拶があった。

事業報告では、推進校より、体力増進に向け、休み時間でも可能な実践や保健体育の授業で行われたパラスポーツの実践、地域の自然と環境を活用した実践、地域で盛んなカヌーを通じたホストタウン交流の実践について報告があった。県教育委員会事務局からは、スポーツ選手ふれあい事業の様子と県内の事業を総括した成果と課題が報告された。次年度もオリンピック・パラリンピックおよび運動・スポーツに対する児童生徒の意識が一層高まる取り組みを期待するとともに、オリンピック・パラリンピック教育の推進に向けて引き続き協力を促し、会を終えた。



会場の様子



実践報告の様子

(8) 大阪市地域ワークショップ

○開催概要

日 時：令和2年2月25日（火）15：30～17：00

会 場：大阪市教育センター

参 加 者：35名

プログラム：

15：30 開会挨拶

大阪市教育委員会事務局指導部 総括指導主事 辻信行

15：35 オリンピック・パラリンピック教育について

日本体育大学 特別研究員 乳井勇二

16：00 オリンピック・パラリンピック教育推進校による取り組み発表

- ・大阪市立南百済小学校
- ・大阪市立井高野中学校
- ・大阪市立大阪ビジネスフロンティア高等学校

16：45 質疑応答

17：00 閉会

○内容

はじめに、本学より、本事業の概要説明、オリンピック・パラリンピック教育の進め方および他地域での実践事例について説明を行った。

続いて、大阪市内推進校8校のうち3校より実践報告があった。大阪市では人権教育や伝統文化への理解を重視しており、地域住民から浴衣の着付けや盆踊りなどの交流に力を入れるなど、目的を明確にした取り組みが多く行われていた。また例年行われているオーストラリア車いすバスケットボールチームとの交流事業も開催され、それぞれの目的に応じた取り組みが実施された。しかし、推進校も含め「I'mPOSSIBLE」の普及状況を確認したところ、半数近くの先生方が学校に届いていることを把握できていない結果であり、市内全体での周知が必要であった。

最後に推進校以外の先生方に向け、質疑応答の時間を設け、ワークショップを終えた。



実践報告の様子

(9) 兵庫県地域ワークショップ

○開催概要

日 時：令和2年2月4日（火）10：00～12：20

会 場：兵庫県看護協会ハーモニーホール

参 加 者：約400名

プログラム：

10：00 開会

10：15 講演「運動の特性に触れ、楽しさや喜びを味わう授業づくり」

帝京大学 教授 高田彬成

11：50 オリンピック・パラリンピック教育実践発表

・南あわじ市立北阿万小学校

・小野市立河合中学校

12：15 諸連絡

12：20 閉会

○内容

兵庫県学校体育研究発表大会と兼ねて開催され、全体会の一部で推進校の実践発表がなされた。

北阿万小学校では、目的意識を持ち、既存の学習を最大限に生かすことを念頭に実践を計画しており、オリパラコーナーの設置、運動会での「パプリカ」ダンス、夏季休暇学習のオリパラ新聞作成、講演会、玉入れの玉で代用した児童会主催ボッチャ大会、児童集会でのオリパラ発表について報告があった。河合中学校では、発見旅行での海外の方へのインタビュー、福祉体験、人権フェスタでのパラリンピック学習発表など、毎年実施している教育活動を活用した報告がなされた。河合中学校は県内で開催されたパラ馬術大会観戦も実施しており、来年の東京2020パラリンピック大会の観戦を予定しているため、今後も継続的にオリンピック・パラリンピック教育に取り組んでいく方針を示した。

両校とも、既存の学校教育活動に関連してオリンピック・パラリンピック教育の取り組みを実施しており、負担感なく実践ができることを参加した県内教員に向けて発信した。



実践発表の様子

(10) 神戸市地域ワークショップ

○開催概要

日 時：令和2年2月26日（水）16：00～17：00

会 場：神戸市役所1号館19階市民参画推進局会議室

参 加 者：9名

プログラム：

16：00 開会挨拶

神戸市市民参画推進局 オリンピック・パラリンピック担当課長 浦野修平

16：05 オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業について

日本体育大学 特別研究員 秋和真澄

16：30 各推進校からの事業報告

- ・大沢中学校
- ・玉津中学校
- ・美賀多台小学校
- ・御影中学校（欠席のため代理報告）

16：50 来年度の事業に向けて

神戸市市民参画局スポーツ振興部国際スポーツ室 上山岳史

17：00 閉会

○内容

はじめに、本学より、事業説明および実践事例・教材紹介、東京2020大会に係る授業参考資料・聖火リレーに関して説明を行った。神戸市は地域セミナーを開催していなかったため、特に事業概要について重点的に説明し、既存の学校教育活動の中にオリンピックやパラリンピックなどの要素を取り入れることでオリンピック・パラリンピック教育になるということを強調して伝えた。

推進校の事業報告では、各校の事業実施報告書が配布され、実施内容および成果と課題について報告があった。3校の中学校では日本オリンピック委員会が主催している「オリンピック教室」を実施しており、事前学習として講師の競技やオリンピック・パラリンピックについて学習していた。美賀多台小学校では、ホストタウン登録国であるネパールに関する学習、ネパールパラ水泳チームとの交流会、ネパールについて学んだことに関する学習発表会と、継続的な取り組みが実施されていた。

最後に、神戸市より来年度事業に関する説明があり、推進校の募集は4月以降になること、オリンピック教室やあすチャレ！スクールなどは来年度も継続的に募集すること、聖火リレーおよび聖火リレーフェスティバルに参加する学校・児童生徒を募集予定であることを伝えた。



事業説明の様子



会場の様子

(11) 岡山県地域ワークショップ

○開催概要

日 時：令和2年2月17日（月）14:00～16:45

会 場：ホテルメルパルク岡山 3階芙蓉

参 加 者：65名

プログラム：

14:00 開会挨拶

岡山県教育庁保健体育課 総括主幹 片岡敏行

14:05 オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業について

日本体育大学 特別研究員 乳井勇二

14:25 講演「オリンピック・パラリンピック教育に期待すること」

岡紀彦（パラ卓球）

井上全悠（パラ卓球）

15:10 休憩

15:20 実践発表

- ・高梁市立宇治小学校
- ・倉敷市立新田中学校
- ・県立玉野光南高等学校

16:20 グループワーク：各校での効果的なオリンピック・パラリンピック教育実践に向けて

16:45 閉会

○内容

はじめに、本学より、本事業の概要説明、オリンピック・パラリンピック教育の進め方および他地域での実践事例について説明を行った。続く講演では、以前に比べるとパラスポーツへの理解や認知度が高まっており、さまざまな場所でバリアフリーが増えている。東京大会後もさらに広がることを望んでいる。また障がいを持っている人も早い年代でパラスポーツに出会えることができればさらに可能性を広げることができるため、多くの人がパラスポーツに出会える環境を望んでいるなど、さらなるパラスポーツへの理解を求めた。実践発表では、岡山県内推進校12校のうち推進校3校より報告があった。

最後に、各学校での効果的なオリンピック・パラリンピック教育の実践に向け、「学校の特徴（教育目標・教育活動）」、「地域からみたオリンピック・パラリンピック（ホストタウン・地元出身選手）」、「実践してみたいオリンピック・パラリンピック教育」というテーマのもとグループワークが行われた。



会場の様子



グループワークの様子

(12) 岡山市地域ワークショップ

○開催概要

日 時：令和2年2月18日（火）14:30～16:30

会 場：岡山市役所本庁舎1階多目的ホール

参 加 者：15名

プログラム：

14:30 開会挨拶

岡山市スポーツ振興課スポーツ誘致推進室 室長 吉田武生

14:35 実践事例報告

- ・岡山市立香和中学校
- ・岡山市立吉備中学校
- ・岡山市立三勲小学校
- ・岡山市立福浜小学校

15:15 各地域拠点におけるオリンピック・パラリンピック教育の実践事例について

日本体育大学 特別研究員 乳井勇二

15:35 休憩

15:45 来年度オリンピック・パラリンピック教育実施に向けた情報交換

16:30 閉会挨拶

岡山市スポーツ振興課スポーツ誘致推進室 副主査 山地貴之

○内容

開会にあたり、岡山市独自のオリンピック・パラリンピック教育を実践できるよう、地域の人材を活用し、オリンピック・パラリンピックの価値を後世に繋いでいけるようご協力いただきたいと挨拶があった。

推進校による実践事例報告では、岡山市の推進校4校全ての学校から報告があった。続いて、本学より、本事業の概要説明、オリンピック・パラリンピック教育の進め方および他地域での実践事例について説明を行った。情報交換では、学校間の情報交換、情報共有が行える場を設けていきたいなど活発な意見交換の場となった。

閉会にあたり、本事業の担当である岡山市スポーツ振興課の山地氏より、本年度は年度途中での依頼となってしまい、学校への負担も大きくなってしまったため、次年度は計画段階からスムーズに取り組めるよう準備を進めていくので協力いただきたいとの挨拶があった。



会場の様子



事例報告の様子

(13) 高知県地域ワークショップ

○開催概要

日 時：令和2年2月21日（木）13：30～16：40

会 場：サンピアセリーズ

参 加 者：44名

プログラム：

13：30 開会挨拶

高知県教育委員会事務局保健体育課 チーフ 大塚剛弘

13：35 事業説明

高知県教育委員会事務局保健体育課 指導主事 山岡誠

13：50 講話：「認め合う心を育てるパラリンピック教育」

日本財団パラリンピックサポートセンター推進戦略部 プロジェクトマネージャー マセソン美季

15：00 休憩

15：10 推進校による実践報告

・宿毛市立宿毛小学校

宿毛市立宿毛小学校 教諭 池本晃翔

・宿毛市立片島中学校

宿毛市立片島中学校 教諭 野村綾彦

・香美市立香長小学校

香美市立香長小学校 教頭 白石ゆり

16：10 オリンピック・パラリンピック教育の取り組みの現状

日本体育大学 特別研究員 大河原裕迪

16：40 閉会

○内容

はじめに、高知県教育委員会事務局より、県のオリンピック・パラリンピック教育の方針と取り組み内容について説明があった。講話では、パラリンピック教育を実施する上での考え方やポイントについて自身の障がいの経験も交えながら伝え、「I'mPOSSIBLE」の具体的な活用方法が紹介された。実践報告では、パラリンピアンとの交流をきっかけとした特別支援学級の児童の変容について、ホストタウン交流、オリンピックと環境教育を関連させた取り組みについて報告があった。本学からは、本事業の目的とオリンピック・パラリンピック教育について、他県での実践事例を説明した。推進校以外の教育関係者も参加していたことから、特にオリンピック・パラリンピック教育の進め方について、既存の取り組みにオリンピック・パラリンピック教育を切り口として活用することで負担を軽減して展開させることについて強調した。



会場の様子



話し合いの様子

(14) 大分県地域ワークショップ

○開催概要

日 時：令和2年2月22日（土）13：00～16：30

会 場：別府ビーコンプラザ小会議室

参 加 者：21名

プログラム：

13：00 開会挨拶

大分県教育庁教育改革・企画課 課長 中村崇志

13：05 オリンピック・パラリンピック教育実践報告

- ・ 県立日田支援学校
- ・ 日田市立大山小学校
- ・ 日出町立川崎小学校
- ・ 豊後高田市立高田中学校
- ・ 県立別府支援学校

13：55 オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業について

日本体育大学 特別研究員 乳井勇二

15：00 グループワーク

16：30 閉会

○内容

はじめに、推進校より実践報告があり、大分県内推進校8校のうち5校より報告があった。

本学からは、本事業の概要説明、オリンピック・パラリンピック教育の進め方および他地域での実践事例について説明を行った。

ワークショップ後半では、2021年以降にオリンピック・パラリンピック教育を継続するためにはというテーマでグループワークを行い、参加した先生方および教育関係者の中で多くの意見が出された。特に地元の人材と環境を活かせるような方法が必要となるなど具体的な意見も多く出され、次年度に向け重要な意見交換の場となった。



実践報告の様子



グループワークの様子

(15) 新潟県地域ワークショップ

※新型コロナウイルス感染症対策のため開催中止

○開催概要

日 時：令和2年2月28日（金）13：30～16：00

会 場：新潟県自治会館別館3階第1研修室

参 加 者：

プログラム：

13：30 開会

13：35 オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業について

日本体育大学 特別研究員 秋和真澄

13：55 パラリンピック教育の現状と今後について

新潟医療福祉大学 准教授 左近慎平

14：15 新潟県地域拠点の取り組み等について

新潟県教育庁保健体育課 副参事 前田友晴

14：35 休憩

14：45 オリンピック・パラリンピック教育推進校実践発表

15：45 質疑応答

16：00 閉会

4. 全国ワークショップ

令和元年度スポーツ庁委託事業「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」の成果報告会として、2019年度の各地域拠点におけるオリンピック・パラリンピック教育の成果と課題を共有するとともに、大会開催年の機運を最大限活用し学習効果を高めるために、2020年度の効果的な事業運営に向けた事業説明およびディスカッションを行う。

※新型コロナウイルス感染症対策のため開催中止とした。

○開催概要

日 時：令和2年3月5日（木）13：30～17：30

会 場：筑波大学東京キャンパス文京校舎

参 加 者：

プログラム：

13：30 開会挨拶

13：35 担当地域拠点における特徴的な実践事例の報告【各大学】

14：05 2020年度事業方針について【スポーツ庁】

※特に聖火リレー、学校観戦等に際するオリンピック・パラリンピック教育の方法について

14：35 休憩・移動

14：45 グループ形式の報告会（成果・課題の共有および次年度に向けたディスカッション）

16：05 休憩・移動

16：15 各グループで議論された内容の報告

16：45 関係団体より情報提供

17：30 閉会

5. 円滑なオリンピック・パラリンピック教育のための支援

地域拠点のコーディネーターとの打合せを必要に応じて行い、事業の見通しや現状把握、問題点の抽出、改善案の検討、次年度の方向性などについて情報交換を行った。推進校などの視察では、事前事後学習などの実践に関する情報収集に努め、授業実施者や推進校関係者から意見を伺う機会として活用し、授業の成果と課題の検証を行った。さらに、地域ワークショップに参加し、推進校での実践や拠点独自の取り組みについて情報を収集するとともに、他拠点の取り組みについて報告した。

(1) 地域拠点推進校数一覧

	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	計
北海道	7	3	4	1	15
栃木県	28	9	2	0	39
千葉県	29	23	10	3	65
千葉市	12	10	0	0	22
新潟県	4	1	0	1	6
新潟市	9	1	0	0	10
石川県	2	2	2	1	7
山梨県	9	6	4	1	20
大阪市	7	7	1	0	15
兵庫県	7	5	6	0	18
神戸市	1	3	0	0	4
岡山県	6	4	1	1	12
岡山市	2	2	0	0	4
高知県	13	6	0	0	19
大分県	3	2	0	3	8
計	139	84	30	11	264

(2) オリンピック・パラリンピック教育に関するアンケート調査

地域拠点におけるオリンピック・パラリンピック教育の効果の検証を目的として、推進校の児童生徒を対象にアンケート調査を実施した。実施したアンケートは本学にて集計を行い、結果を推進校及び各地域拠点に返却した。以下にアンケート調査の概要について報告する。

○アンケート調査概要

【調査方法】

無記名質問紙法による。オリンピック・パラリンピック教育の実施前と実施後の2回アンケート調査を実施し、比較検討する。

【調査期間】

第1回：2019年5月～10月

第2回：2019年12月～2020年1月

【調査対象】

地域拠点推進校において、オリンピック・パラリンピック教育として実施する授業を受ける小学校4年生以上から高等学校3年生までの児童生徒。

【調査対象数】

	第1回		第2回	
	推進校数(校)	人数(名)	推進校数(校)	人数(名)
北海道	9	604	9	586
栃木県	31	3,873	31	3,770
千葉県	37	7,752	37	7,686
千葉市	22	2,199	22	2,145
新潟県	5	177	5	174
新潟市	10	676	10	653
石川県	5	565	5	567
山梨県	12	1,125	12	1,112
大阪市	6	461	6	460
兵庫県	15	2,611	15	2,523
岡山県	12	913	12	911
岡山市	2	251	2	244
高知県	12	693	12	687
大分県	6	486	6	461
計	184	22,386	184	21,979

【調査項目】

- ・オリンピック・パラリンピックについて
 - ア オリンピックに興味がありますか。
 - イ パラリンピックに興味がありますか。
 - ウ 将来、オリンピックにボランティアや応援などで参加したいですか。
 - エ 将来、パラリンピックにボランティアや応援などで参加したいですか。
 - オ これから行われるオリンピック・パラリンピックイベントに参加したいと思いますか。

- ・活動テーマについて
 - ア 社会や人のために役に立つことをしたいと思いますか。
 - イ お年寄や障害のある方と交流したいと思いますか。
 - ウ 運動やスポーツをすること、みることに興味がありますか。
 - エ 日本の伝統・文化について興味がありますか。
 - オ 外国の人々の暮らしや習慣などを調べてみたいと思いますか。

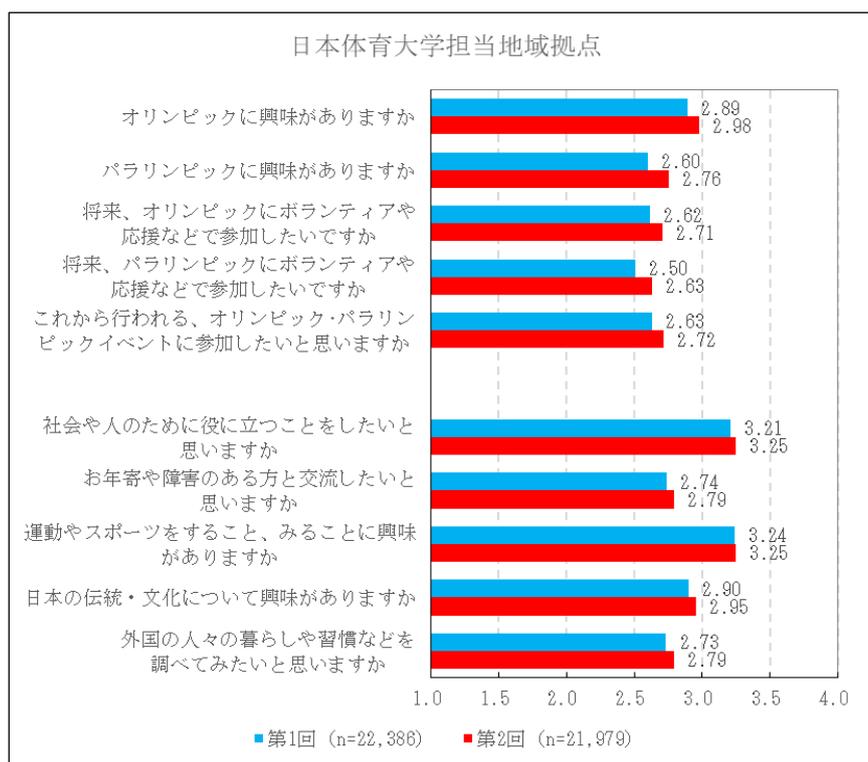
【集計方法】

オリンピック・パラリンピックに関する5項目および活動テーマに関する5項目について下表の4段階で尋ね、最も否定的な回答を1、最も肯定的な回答を4として数値化した。

数値	オリンピック・パラリンピックについて	活動テーマについて
1	興味がない/参加したくない	思わない/興味がない
2	あまり興味がない/あまり参加したくない	あまり思わない/あまり興味がない
3	興味がある/参加したい	思う/興味がある
4	とても興味がある/ぜひ参加したい	とても思う/とても興味がある

○アンケート調査結果

全ての設問において第2回が第1回の値を上回る結果となった。オリンピック・パラリンピックについて、オリンピックに関する設問とパラリンピックに関する設問を比較すると、オリンピックに関する設問がより高い値を示すが、第1回から第2回にかけて値の増加がより大きいのはパラリンピックに関する設問であった。活動テーマについて、5つの設問のうち、「お年寄や障害のある方と交流したいと思いませんか」「外国の人々の暮らしや習慣を調べたいと思いませんか」という設問の値が他の設問と比較して低いため、今後、実施テーマとして重点的に取り組む必要がある。



✚ N-COPE の取り組み

1. オリンピック・パラリンピック教育授業実施

○概要

授業資料および指導案を作成し、推進校を中心として全国の学校に広めていく。また、担当教員の負担軽減およびオリンピック・パラリンピック授業のモデル化を目的とした出前授業を行った。

作成した授業資料および指導案はホームページで公開している（右記 QR コード参照）。



○テーマ

<国際的なスポーツ大会などが果たす文化的な意義や役割・現代のスポーツの意義や価値>

校種	教科	領域	学年	単元
中学校	保健体育科	体育理論	3	国際的なスポーツ大会などが果たす文化的な意義や役割
高等学校	保健体育科	体育理論	1	現代のスポーツの意義や価値

オリンピックの精神やパラリンピックと共生社会などオリンピック・パラリンピックを題材とした。特にパラリンピックについては共生社会の実現に向け、障がい者やパラスポーツへの理解を深めていけるよう実技体験を交えた内容を考案した。

<運動やスポーツが心身及び社会性に及ぼす効果>

校種	教科	領域	学年	単元
中学校	保健体育科	体育理論	2	運動やスポーツが心身及び社会性に及ぼす効果

過去のオリンピック・パラリンピック大会で行われた試合やエピソードより、フェアプレイ精神を題材とした。

<運動やスポーツの多様性>

校種	教科	領域	学年	単元
中学校	保健体育科	体育理論	1	運動やスポーツの多様性

運動やスポーツを「する」「見る」「支える」「知る」などの多様な関わり方について、オリンピック・パラリンピックを題材とした。

<スポーツの経済的効果と高潔さ>

校種	教科	領域	学年	単元
高等学校	保健体育科	体育理論	1	スポーツの経済的効果と高潔さ

オリンピック・パラリンピック等の国際大会には経済的な波及効果があり、スポーツ産業が経済の中で大きな影響を及ぼしていることを題材とした。また、スポーツを「見る」「支える」の視点から取り上げ、スポーツと関わる経済活動に求められるスポーツの価値の遵守について理解させる題材とした。

○授業実施校

学校	人数	対象	内容
日本体育大学柏高等学校	120	1年生	オリンピックの理念・パラリンピックと共生社会
北海道鶴居村立鶴居中学校	60	全生徒	オリンピックの理念・パラリンピックと共生社会
北海道浜中町立霧多布中学校	65	全生徒	オリンピックの理念・パラリンピックと共生社会
北海道浜中町立茶内中学校	65	全生徒	オリンピックの理念・パラリンピックと共生社会
北海道池田高等学校	76	1年生	パラリンピックと共生社会、スポーツと経済
北海道足寄町立足寄中学校	180	1年生	パラリンピックと共生社会、運動やスポーツの多様な関わり方
		2年生	パラリンピックと共生社会、スポーツと社会性
		3年生	オリンピックの理念、パラリンピックと共生社会
埼玉県越谷市立大間野小学校	100	6年生	オリンピックの理念・パラリンピックと共生社会
旭川実業高等学校	360	1年生普通科	パラリンピックと共生社会、ドーピングとスポーツ倫理
		1年生普通科	パラリンピックと共生社会、フェアプレイの精神
		1年生商業科	パラリンピックと共生社会、スポーツと経済
		1年生機械科	パラリンピックと共生社会、スポーツと経済
		1年生自動車科	パラリンピックと共生社会、スポーツと経済
長野県佐久市立臼田中学校	120	1年生	パラリンピックと共生社会、パラスポーツ体験
長野県軽井沢町立軽井沢中学校	120	3年生	パラリンピックと共生社会、フェアプレイの精神
青森県弘前実業高等学校	80	1年生体育科	パラリンピックと共生社会、ドーピングとスポーツ倫理
岡山県立玉野光南高等学校	80	1年生体育科	パラリンピックと共生社会、ドーピングとスポーツ倫理
北海道釧路市立共栄中学校	69	1年生	パラリンピックと共生社会、運動やスポーツの多様な関わり方
北海道陸別町立陸別小学校	105	高学年	パラリンピックと共生社会、パラスポーツ体験
		低学年	パラスポーツ体験

※「パラリンピックと共生社会」で実施している障がい者体験や、「パラスポーツ体験」は、本学所有のパラスポーツ用具（ボッチャ、ゴールボール、シッティングバレーボールなど）を利用して行った。

※授業受講者数：計 1,600 名（小学校 205 名、中学校 679 名、高等学校 716 名）

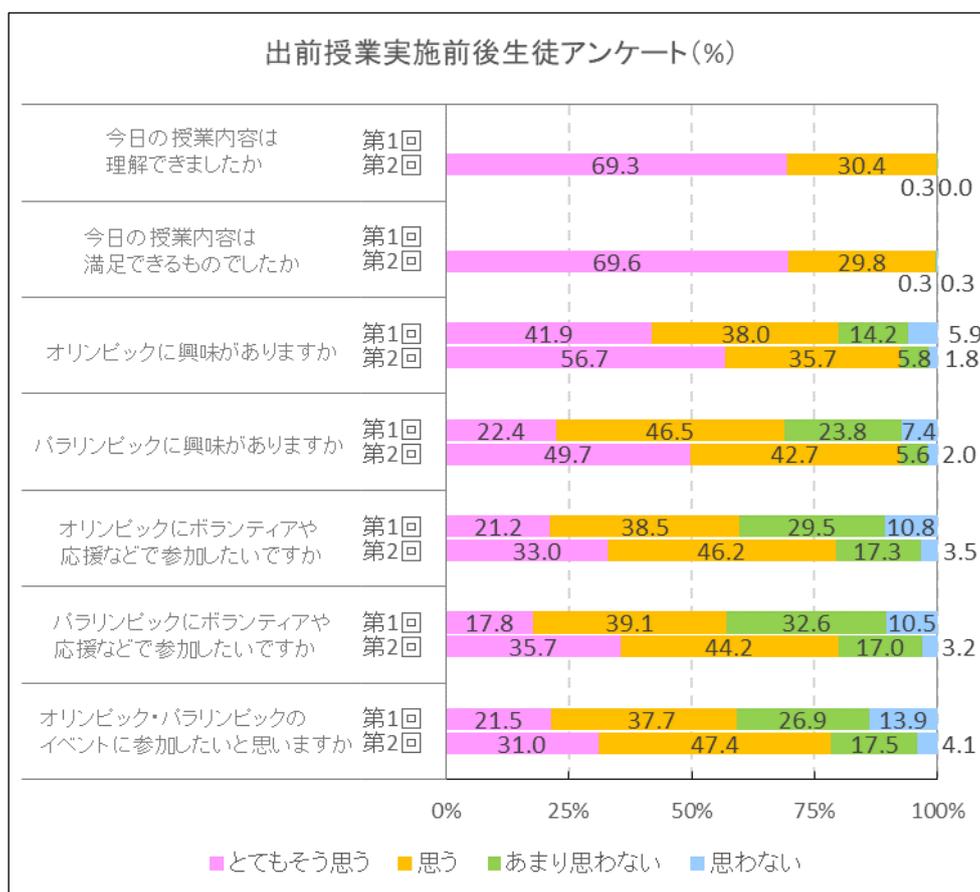
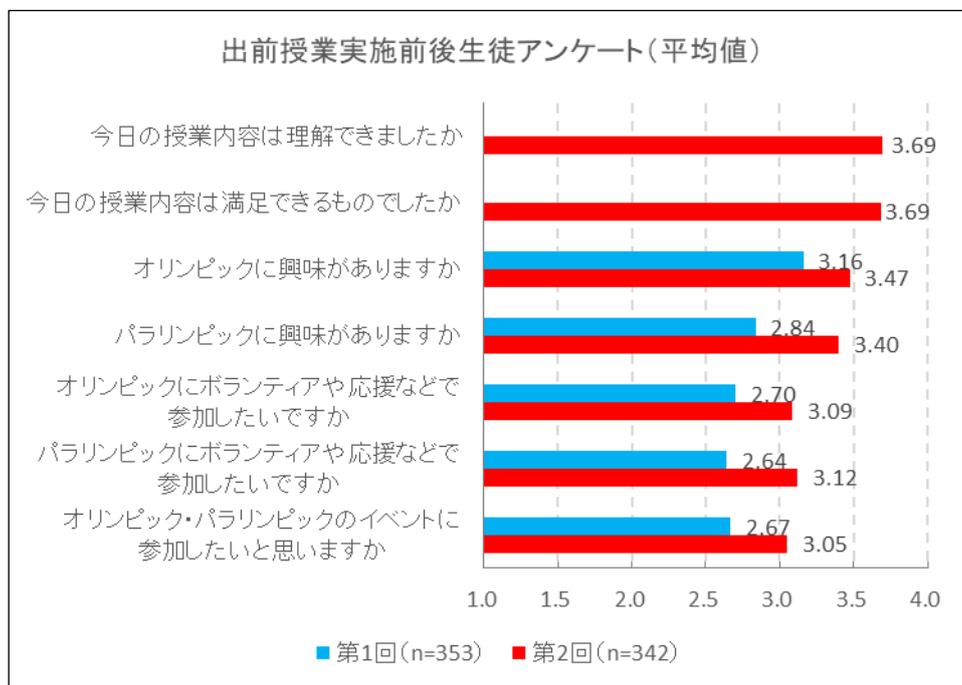
○効果検証

【出前授業実施前後のアンケート調査】

出前授業実施前、実施後に、生徒に対してアンケート調査を実施した。各設問について、「1. 思わない」「2. あまり思わない」「3. 思う」「4. とてもそう思う」の4段階でたずね、最も否定的な回答を1、最も肯定的な回答を4として数値化し、全回答の平均値および割合を算出した。

実施前の平均値は2.64～3.16点だったが、実施後の平均値は3.05～3.47点となり、肯定的な回答が増加した。オリンピック・パラリンピックについての知識や関心が高まったと考えることができる。特にパラリンピックに関する設問での上昇率が高く、元々の認識の低さから新たな知識や発見により興味関心が高まったと考えることができる。また、授業内容についての理解や満足に関する設問では平均値が共に3.69点、回答の割合においても9割以上が「3. 思う」、「4. とてもそう思う」の肯定的な回答をしており、オリンピック・パラリンピックについての知識が高

まっただと考えることができる。しかしボランティアや応援については3割程度が「1. 思わない」、「2. あまり思わない」の否定的な回答を示しており、オリンピック・パラリンピックを身近に感じ、考えることができるよう、興味関心に加え、意欲的に参加したいと思えるような授業内容の検討が必要となる。



2. パラリンピック教育

○概要

総合的な学習の時間における継続的なパラリンピック教育の事例を映像で紹介することで学校での展開の参考となることを目的とし、教員向け映像教材を作成した。

作成した映像教材はホームページで公開している（右記 QR コード参照）。



○本編

2018年度東京都江戸川区立清新ふたば小学校6学年において、総合的な学習の時間にパラリンピックを題材にして全22時間の授業が行われた。授業は、総合的な学習の時間の探究過程である「課題設定」「情報収集」「整理・分析」「まとめ・表現」のサイクルが2巡行われ、児童の「考える力」をつけるために思考ツールも活用しながら展開された。

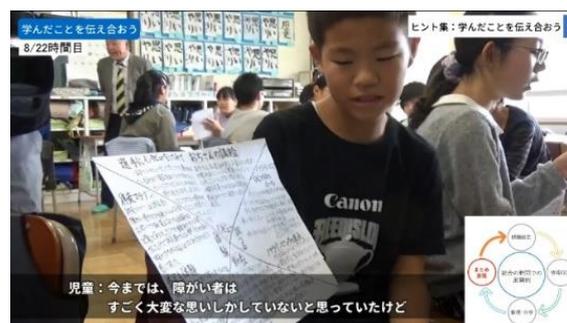
1巡目の探究過程と2巡目の探究過程を各8分30秒程度の映像にまとめ、画面内には各授業時のめあてと時間数、探究過程のどこにあたるか、ヒント集と関連のあるシーンが分かるようにテロップと図で示した。授業のめあてにあたる冒頭と授業の様子、授業のまとめを主な構成とし、授業者が児童からの「振り返り」を踏まえてどの様に展開しているかの大筋がわかるように編集した。

<前編>

課題設定	パラリンピックについて触れ、自分たちがパラリンピックについて知らないことに気付く
情報収集	インターネットでの調べ学習、パラアスリートへのインタビュー、パラスポーツ体験を通して情報を集める
整理・分析	これまで集めた情報や自身の考えを、思考ツールを用いて整理する
まとめ・表現	クラス発表



課題設定：「I'mPOSSIBLE」映像視聴



まとめ・表現：クラス発表

<後編>

課題設定	これまで学習したパラリンピックの魅力や学校内外に広める
情報収集	広めるための方法の検討、PR動画の作成
整理・分析	
収録：インタビュー	授業実施者および校長の聞き取り



課題設定：
パラリンピックの魅力を校内外に広める

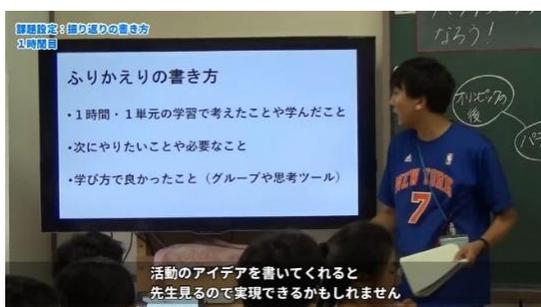


整理・分析：
パラリンピックの魅力を広める方法の検討

○ヒント集

授業を進める過程で参考になるとと思われる思考ツールの使用例等の授業シーンを1~2分程度でまとめた。短時間の動画でもイメージが付きやすいよう、使用する思考ツールの画像と共に簡単な説明を冒頭で示し、授業での説明・使用シーンを挟み、最後に授業で使用した思考ツールの完成図を示した。

課題設定	思考ツールの活用：マンダラチャート	調べ学習の内容についてアイデアを出すときの使用例
	振り返りの書き方	学習の記録・整理だけでなく、児童の主体的な学びとなるように次回に向けたアイデアを先生に提案するコミュニケーションツールとしても使用した「振り返り」の書き方
情報収集	思考ツールの活用：フィッシュボーン	インタビューを限られた時間の中で効率的に行うために、質問用紙兼当日のメモ用紙としてアレンジした使用例
	インタビュー	事前学習の様子と、役割を分担してインタビューに臨んでいる様子
整理分析	思考ツールの活用：XYチャート	学習してきたことをまとめるにあたり、学習内容や考え・思いをひとまとめに整理するのではなく、学習内容ごとの思いや考えの変化が区別してわかるように使用した際の使い方
	思考ツールの活用：ピラミッドチャート	マンダラチャートを使って出したアイデアを取捨選択やアイデアを組み合わせることで練り上げ、より効果的な方法を決めるために使用した際の使い方
	思考ツールの活用：マトリクス	ピラミッドチャートだけでは絞り切ることができなかった広める手段について、視点ごとに視覚化して比較検討するために使用した際の使い方
まとめ・表現	学んだことを伝え合おう	学習の成果を発表し合い、自分の学びや変化だけでなく、クラスメイトの発表を聞くことで同じ活動をしながらも多様な考え方があつたことを学ぶ様子



振り返りの書き方



思考ツールの活用：マンダラチャート

3. 国際相互理解教育

内閣官房東京オリンピック競技大会・パラリンピック競技大会推進本部事務局が展開しているホストタウン構想では、2020年2月28日現在、417件がホストタウンとして登録されている。事前キャンプ地の誘致も絡めた情報の収集や整理、共有や活用を進めた。

全国セミナー・地域セミナー、地域ワークショップなどの情報発信の場では、地域拠点のホストタウン相手国・地域の情報やホストタウンと関連した取り組み事例について、他地域拠点での取り組みの参考となるよう積極的に発信した。

- ・ 釧路市立朝陽小学校：ベトナムパラパワーリフティング選手団との交流会



交流会の様子



応援旗の作成

- ・ 神戸市立美賀多台小学校：ネパールパラ水泳選手団との交流会



ネパールに関する事前学習発表



じゃんけん列車
(選手の障がい considering 言葉で表現)

- ・ 那須塩原市立東那須野中学校：オーストリア料理給食



オーストリア料理



オーストリア紹介映像の視聴

あとがき

本事業では今年度も昨年に引き続き、北海道、栃木県、千葉県、千葉市、新潟市、石川県、大阪市、兵庫県、神戸市、高知県、大分県に、新潟県、山梨県、岡山県、岡山市が新たに地域拠点として加わり、本事業の目的である、大会そのものへの興味関心の向上だけでなく、オリンピックおよびパラリンピック価値の理解を深めると共に、規範意識の涵養、国際・異文化理解、共生社会への理解を深めるためのオリンピック・パラリンピック教育の全国展開をサポートして参りました。その中でも、学校教育を中心に地域において「健康的で創造的な社会」「他者と生きる共生社会」に向けた実践が生じていることには大きな意味があるといえます。

本事業も4年目が終了し、日を追うごとにオリンピック・パラリンピックの理念を文化的遺産として、まず教育レベルで普及していく活動が広がりを見せ、軌道に乗ってまいりました。今年度も昨年度に引き続き、特別研究員を中心にオリンピック・パラリンピック教育の内容を研究し、各地域拠点での事業推進に生かすことに務めました。その成果が本報告書に記載されています。

最後になりましたが、昨年に引き続き連携していただいた各地域拠点の教育委員会をはじめとする関係部署の皆様、各推進校の皆様、大学、関係諸団体の皆様には今年度もご協力いただき、ありがとうございました。事業担当者を代表してお礼申し上げます。今年度の成果が2020年東京大会を迎えるに当たり、少しでも日本全国の人々の生活に、そして子どもたちの教育に役立つことを願って結びといたします。

令和2年3月

スポーツ庁委託事業「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

日本体育大学実施担当責任者 教授 関根正美

事業実施体制

オリパラ役職	氏名	日本体育大学役職	事業での役割
全体統括	具志堅幸司	学長	全体統括
運営統括	松井幸嗣	副学長・体育学部長兼務	運営統括
	笠井里津子	副学長	
事業担当責任者	関根正美	教授・オリンピックスポーツ文化研究所長	実施担当責任者
実施アドバイザー	野井真吾	教授・総合スポーツ科学研究センター長	教育支援(学校保健学)
	中里浩一	教授・体育研究所長	教育支援(運動生理学)
	白旗和也	教授・スポーツプロモーション・オフィスディレクター	教育支援(スポーツ教育学)
	野村一路	教授	パラリンピック教育支援(生涯スポーツ学)
	田中信行	教授	パラリンピック教育支援(アダプテッドスポーツ学)
実施担当者	秋和真澄	特別研究員	教材開発及び検証、地域拠点支援、広報他
	乳井勇二	特別研究員	
	大河原裕迪	特別研究員	
事業協力者	石井隆憲	教授・オリンピックスポーツ文化研究所員	教育支援(スポーツ社会人類学)
	笠井里津子(兼)	教授・オリンピックスポーツ文化研究所員	教育支援(ダンス・伝統芸能)
	近藤智靖	教授・オリンピックスポーツ文化研究所員	教育支援(スポーツ教育学)
	後藤彰	教授・オリンピックスポーツ文化研究所員	教育支援(教職教育)
	須永美歌子	教授・オリンピックスポーツ文化研究所員	教育支援(運動生理学)
	津田博子	教授・オリンピックスポーツ文化研究所員	教育支援(ダンス・伝統芸能)
	成田和穂	教授・オリンピックスポーツ文化研究所員	教育支援(スポーツ医学)
	依田充代	教授・オリンピックスポーツ文化研究所員	教育支援(スポーツ社会学)
	亀山有希	准教授・オリンピックスポーツ文化研究所員	教育支援(スポーツ社会学)
	齋藤雅英	准教授・オリンピックスポーツ文化研究所員	教育支援(教育心理学)
	佐野昌行	准教授・オリンピックスポーツ文化研究所員	教育支援(スポーツ経営管理学)
	波多腰克晃	准教授・オリンピックスポーツ文化研究所員	教育支援(スポーツ哲学)
	日比野幹生	准教授・オリンピックスポーツ文化研究所員	教育支援(スポーツ政策学)
	松瀬学	准教授・オリンピックスポーツ文化研究所員	教育支援(スポーツマネジメント)
	松浪登久馬	准教授・オリンピックスポーツ文化研究所員	教育支援(スポーツ社会人類学)
	村田由香里	准教授・オリンピックスポーツ文化研究所員	教育支援(表現運動)
	神田俊平	助教・オリンピックスポーツ文化研究所員	教育支援(スポーツ文化・社会科学)
	富田幸祐	助教・オリンピックスポーツ文化研究所員	教育支援(オリンピックスポーツ文化)
	仲間若菜	助教・オリンピックスポーツ文化研究所員	教育支援(ダンス・伝統芸能)
	福井元	助教・オリンピックスポーツ文化研究所員	教育支援(スポーツ史)
	松本真咲	助教・オリンピックスポーツ文化研究所員	教育支援(ダンス・伝統芸能)
事業スタッフ	勝田真也	企画部長	事務統括
	恵元	総合スポーツ科学研究センター事務長	業務管理
	遠藤貢次	管理部会計課長	経理管理
事務補助スタッフ	武井静香	事務補助スタッフ	事務、会計

2019年度スポーツ庁委託事業

「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」報告書

令和2年3月

発行：日本体育大学「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

東京都世田谷区深沢7-1-1

TEL：03-5706-0923

ホームページ：<http://www.nittai.ac.jp/ncope/index.html>

ホームページQRコード：右記

